

2月の澄んだ大気と「視程」

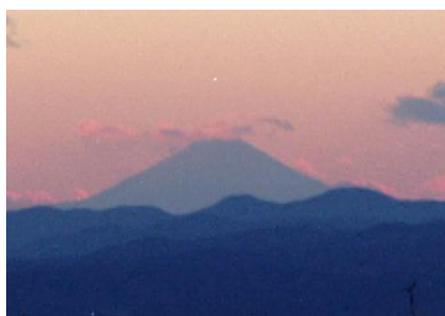
天気相談所や気象台が行っている気象観測には「視程」も含まれています。

視程は、大気の混濁の度合いを表すもので、山や煙突、ビル等の目標物を、肉眼で識別できる距離で計測しています。どの程度遠くが見えたかを示すものではありません。

年間の最低気温が観測される今ごろは、太平洋側は乾燥した晴天が続き、大気中の水蒸気量は少なく、観測される視程距離は長くなります。

しかし、地球は丸いために地平線（水平線）の見える範囲は限られ、標高が高ければ高いほど、より遠くまで見通すことができます。

例えば富士山頂（標高 3776m）から見通すことができる地平線（水平線）までの距離はおおよそ 235km です。この範囲内には日立市の区域の大部分も含まれています。



「奥日立きららの里」からの富士山
(きららの里提供)

入四間町の「奥日立きららの里」(標高約 400m)では、気象条件が合えば年間をとおして南西方向に富士山を見ることができます。特に冬季は雪を被った白い姿が確認できるそうです。ぜひ自分の眼で直線距離 220 kmのかなたに浮かぶ富士山を確認してみてください。

なお、市内では、^{たつわれさん} 堅破山 (658m) や高鈴山 (623m) など多賀山地の一部が富士山の見える範囲に含まれています。

< 2月の暦と関東甲信地方の季節予報 >

- ▽ 3日 「節分」
- ▽ 4日 「立春」(二十四節気)
- ▽ 19日 「雨水」(二十四節気)

季節予報では2月は平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年並または高い確率が共に40%、降水量は平年並または多い確率が共に40%になっています。



日立の気候表

	1月	2月	3月
平均気温	4.5℃	4.4℃	6.8
降水量	46.3mm	61.9mm	103.5
日照時間	195.0時間	173.0時間	181.3

平年値 (1971~2000年)

【気象現象の不思議】 「霜と霜柱」

冷え込みが厳しい朝、0℃以下になった物の表面に、空気中の水蒸気(気体)が直接凍りついたものが霜。土の中の水分(液体)が毛細管現象によって上昇し、地表面近くで凍ったものが霜柱です。

このため「霜が降りる」「霜柱が立つ」という言い方がされています。

関東地方は昔から霜柱の多い所といわれてきました。これは水分を多く含むことができる赤土で構成された、「関東ローム層」が広く分布しているためです。

しかし、コンクリートやアスファルトで造られた現代の街では、サクサクと霜柱を踏んで歩くことはほとんどなくなってきました。

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~htenso>

行政放送(ケーブルテレビ 5ch)でも定期的に天気予報をお知らせしています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。